

令和 7 年 度

学 校 要 覧



山 形 県 立 遊 佐 高 等 学 校

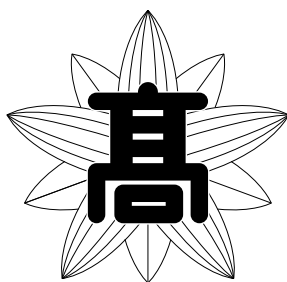
〒 999 - 8301 山形県飽海郡遊佐町遊佐字堅田 21 番地の 1

電 話 (0234) 7 2 - 3 4 2 2 (事務室)

(0234) 7 2 - 3 4 2 3 (職員室)

F A X (0234) 7 2 - 2 0 4 1

U R L <http://www.yuza-h.ed.jp>



—— 校 章 の 由 来 ——

校章の図案は、昭和23年4月県立高校に移管されたのに伴い校内公募され、全校投票によって当時在学中の阿部民雄氏の「鳥海ふすま」を図案化した作品に決まった。その後、若干の色付け等修正が加えられ現在のものとなったものである。

明るく 普通の速さで 校 歌 大木 惇夫 作詞 飯田 信夫 作曲

が っ こ う が わ の み ず き よ く こ
こ ろ す す げ る 遊 佐 の 子 わ れ ら
に え ま な ぼ む い そ し ま む
ゆ き 丘 と か し て う る ほ す み どり わ が ふ る さ と に つ ち か ひ て り そ
う の み の り り り い れ む

三、
日本海にかけわたす
虹に祈りの熱き子われら
徳を積みなむ 睦みなむ
夢は気高し御空の青さ
わが立つところのびらかに
平和の星を仰がばや

二、
鳥海ふすま美しき
花を象せる幸の子われら
智恵を磨かむ 励みなむ
明日にそなへて湛ふる泉
わが家の政とのへて
文化の灯しつけんかな

一、
月光川の水清く
こころ漱げる遊佐の子われら
錬へ学ばむ いそしまむ
雪を解かしてうるほす緑
わがふるさとに培ひて
理想の実り刈り入れむ

作詞 大木 惇夫
作曲 飯田 信夫

—— 校 歌 の 由 来 ——

校歌は昭和25年、当時の職員 小林智彦先生の弟 金子智一氏を通じて、詩人 大木惇夫氏に作詞を、飯田信夫氏に作曲をしていただいたものである。

目 次

	頁
校 章 の 由 来	表紙裏
校 歌	々
校 歌 の 由 来	々
沿 革 の 概 要	2
歴 代 校 長	3
1 教育目標と方針、スクールミッション・スクールポリシー	4
2 各年次の目標と方針	7
3 各部の重点目標	9
4 各教科の指導方針	12
5 学校運営組織	14
(1) 校務運営組織図	14
(2) 各 種 委 員 会	15
6 教 職 員 一 覧	16
7 教 育 計 画	17
(1) 教 育 課 程 表	17
(2) 総合的な探究の時間	17
(3) 特 別 活 動	18
8 学校保健計画・学校安全計画	20
9 災害等防止対策要綱	22
10 生 徒 の 状 況	24
11 進 路 状 況	26
12 図 書 館 概 要	27
13 施 設 一 般	28
14 学校運営協議会	31
15 関 係 団 体	32
年間行事予定表	

沿 革 の 概 要

昭和 2 年 5 月 16 日	遊佐、稲川、蕨岡、三ヶ村組合立遊佐実業公民学校設立認可
昭和 2 年 6 月 15 日	飽海郡遊佐村吉出に開校
昭和 9 年 11 月 20 日	飽海郡遊佐村大字遊佐町字五所馬場 32 に新校舎落成移転
昭和 11 年 12 月 9 日	学校組合に高瀬村加入
昭和 12 年 12 月 27 日	校舎全焼
昭和 13 年 12 月 12 日	新校舎再建落成
昭和 15 年 3 月 31 日	学校組合に南遊佐村、西遊佐村、吹浦村加入
昭和 22 年 4 月 30 日	遊佐実業公民学校に遊佐公民中学校の併設認可
昭和 23 年 3 月 31 日	遊佐実業公民学校廃校
昭和 23 年 4 月 1 日	山形県立遊佐高等学校設立 5 月 5 日開校
昭和 25 年 3 月 31 日	併設遊佐公民中学校廃校
昭和 28 年 3 月 25 日	山形県立遊佐高等学校に通常課程を設置
昭和 30 年 4 月 1 日	山形県立遊佐高等学校通常課程の定員を 50 名増加し農業科を設置
昭和 32 年 4 月 1 日	山形県立遊佐高等学校通常課程の定員を 50 名増加し家庭科を設置
昭和 36 年 4 月 15 日	遊佐高等学校後援会結成
昭和 36 年 7 月 24 日	遊佐高等学校振興会結成
昭和 36 年 11 月 9 日	創立 35 周年記念式典挙行
昭和 37 年 4 月 1 日	山形県立遊佐高等学校全日制の課程普通科 50 名定員増
昭和 40 年 3 月 20 日	遊佐町大字遊佐町鶴田 4 の 3 に校長公舎 80㎡竣工
昭和 40 年 3 月 31 日	定時制の課程廃止
昭和 40 年 4 月 1 日	県移管
昭和 41 年 11 月 13 日	創立 40 周年記念式典挙行
昭和 42 年 3 月 23 日	柔剣道場 346.5㎡竣工
昭和 42 年 4 月 1 日	全日制の課程の家庭科を廃止し、生活科を設置
昭和 51 年 1 月 17 日	校舎改築期成同盟会結成
昭和 51 年 11 月 1 日	創立 50 周年記念式典挙行
昭和 52 年 4 月 1 日	全日制の課程の定員を普通科 135 名、生活科 40 名とし、農業科募集停止
昭和 53 年 10 月 17 日	飽海郡遊佐町字堅田 21-1 の新校舎に移転開始
昭和 54 年 10 月 27 日	新校舎竣工記念式典挙行
昭和 54 年 10 月 27 日	前庭寄贈（竣工記念事業委員会寄贈）
昭和 56 年 4 月 1 日	全日制の課程定員が普通科 129 名、生活科 35 名となる。
昭和 57 年 4 月 1 日	全日制の課程、普通科 1 学級募集休止となり、定員が普通科 90 名、生活科 35 名となる。
昭和 57 年 10 月 12 日	北校舎竣工記念式典挙行
昭和 58 年 4 月 1 日	全日制の課程の定員が普通科 135 名、生活科 40 名となる。
昭和 58 年 4 月 30 日	屋外運動場竣工 13,508.00㎡
昭和 60 年 4 月 1 日	生活科を園芸家政科に科名変更
昭和 61 年 3 月 24 日	体育館竣工 1,585.92㎡ 廊下 28.27㎡
昭和 61 年 10 月 28 日	創立 60 周年記念式典挙行
昭和 62 年 11 月 17 日	芸術教室（芸術・書道）竣工 234㎡
昭和 63 年 4 月 1 日	園芸家政科募集停止
昭和 63 年 6 月 15 日	体育館・芸術教室竣工記念式典挙行
平成元年 11 月 8 日	園芸家政科を閉じる会式典挙行
平成 8 年 6 月 15 日	創立 70 周年記念式典挙行

平成 9 年 4 月 1 日	全日制の課程普通科 1 学級減、1 学年定員 80 名となる。
平成 18 年 10 月 21 日	創立 80 周年記念式典挙行
平成 25 年 4 月 1 日	全日制の課程普通科 1 学級減、1 学年定員 40 名となる。
平成 27 年 4 月 1 日	平成 27 年度入学生から全日制の課程総合学科に改編
平成 29 年 6 月 10 日	創立 90 周年記念式典挙行
令和 2 年 4 月 20 日	県外志願者受入制度並びに遊佐町自然体験留学制度を活用した遊学生を受け入れを開始

歴 代 校 長

代	氏 名	就任年月日	転退任年月日
公民学校初代	尾 形 長 蔵	昭和 2 年 5 月 18 日	昭和 23 年 1 月 10 日
高等学校初代	田 宮 徳 治	昭和 23 年 4 月 12 日	昭和 32 年 3 月 31 日
二 代	本 間 寛 治 郎	昭和 32 年 4 月 1 日	昭和 34 年 3 月 31 日
三 代	齋 藤 勇	昭和 34 年 4 月 1 日	昭和 37 年 3 月 31 日
四 代	渡 部 信 治 郎	昭和 37 年 4 月 1 日	昭和 40 年 3 月 31 日
五 代	大 室 敏 中	昭和 40 年 4 月 1 日	昭和 42 年 3 月 31 日
六 代	齋 藤 宏 一	昭和 42 年 4 月 1 日	昭和 48 年 3 月 31 日
七 代	大 場 與 惣 治	昭和 48 年 4 月 1 日	昭和 53 年 3 月 31 日
八 代	本 間 良 衛	昭和 53 年 4 月 1 日	昭和 55 年 3 月 31 日
九 代	五十嵐 信 男	昭和 55 年 4 月 1 日	昭和 58 年 3 月 31 日
十 代	佐 藤 堅 之 助	昭和 58 年 4 月 1 日	昭和 62 年 3 月 31 日
十 一 代	遠 藤 正	昭和 62 年 4 月 1 日	平成 2 年 3 月 31 日
十 二 代	加 藤 稔	平成 2 年 4 月 1 日	平成 3 年 3 月 31 日
十 三 代	志 田 元	平成 3 年 4 月 1 日	平成 5 年 3 月 31 日
十 四 代	二 藤 部 邦 幸	平成 5 年 4 月 1 日	平成 7 年 3 月 31 日
十 五 代	佐 藤 英 治	平成 7 年 4 月 1 日	平成 9 年 3 月 31 日
十 六 代	大 場 登	平成 9 年 4 月 1 日	平成 11 年 3 月 31 日
十 七 代	宮 澤 勝 男	平成 11 年 4 月 1 日	平成 14 年 3 月 31 日
十 八 代	畠 山 重 行	平成 14 年 4 月 1 日	平成 16 年 3 月 31 日
十 九 代	山 岸 文 章	平成 16 年 4 月 1 日	平成 18 年 3 月 31 日
二 十 代	田 中 芳 昭	平成 18 年 4 月 1 日	平成 20 年 3 月 31 日
二 十 一 代	成 澤 満	平成 20 年 4 月 1 日	平成 23 年 3 月 31 日
二 十 二 代	五十嵐 栄 一	平成 23 年 4 月 1 日	平成 26 年 3 月 31 日
二 十 三 代	鈴 木 雄 二	平成 26 年 4 月 1 日	平成 28 年 3 月 31 日
二 十 四 代	鈴 木 ま ゆ み	平成 28 年 4 月 1 日	平成 31 年 3 月 31 日
二 十 五 代	池 田 理	平成 31 年 4 月 1 日	令和 3 年 3 月 31 日
二 十 六 代	佐 藤 り か	令和 3 年 4 月 1 日	令和 6 年 3 月 31 日
二 十 七 代	齋 藤 恵 美	令和 6 年 4 月 1 日	

1 教育目標と方針、スクールミッション・スクールポリシー

《 校 訓 》 進んで学び、自ら考え、たくましく行動する

〔1〕教育目標

憲法と教育基本法に精神に沿って全人的な教育を行い、平和で住みよい社会の形成と文化の発展に貢献できる人間を育成する。

〔2〕教育方針

- ① 一人一人が輝き、いきいきと高校生活を送る生徒の育成に努める。
- ② 学力の定着・向上と進路指導の充実に努める。
- ③ 基本的生活態度を身につけさせ、広い視野と社会性の涵養に努める。
- ④ 心身の健康の増進を図り、何事にも果敢に挑戦する強靱な意思の育成に努める。

〔3〕学校経営方針

- ① 家庭・地域との連携を密にし、地域に開かれた特色ある学校づくりを進める。
- ② 教育目標達成のため、PDCAサイクルに基づいた教職員の協働体制づくりに努める。
- ③ 教職員の健康保持・増進と、資質の向上に努める。

〔4〕重点目標

（1）地域と共にある学校づくりの推進

- ① ふるさとキャリア教育の充実と進路志望の達成
- ② 地域学習の充実及び深化とその成果の発表
- ③ 外部人材の活用と行政や事業所等との連携の推進
- ④ ボランティアの単位認定を活用した地域への貢献
- ⑤ 地域への高校の魅力発信

（2）魅力ある学校づくりへの適切な対応

- ① 探究型学習の推進による主体的・対話的で深い学びの実現
- ② 地域の教育力や教育資源を活かした特色ある教育活動の推進
- ③ 小規模校の良さを生かした特別活動等の充実
- ④ 地域と連携した学校魅力化による県内外からの生徒募集の推進とその効果の推進
- ⑤ ICTの活用や遠隔授業の推進

(3) 進んで学び、課題に挑戦する意欲を持ち、たくましく行動する生徒の育成

- ① 授業改善と学習習慣の確立による基礎学力の定着と向上
- ② ルーブリック評価を活用した到達目標の共有と基本的生活習慣の確立
- ③ 心身の健康の確立と特別支援教育の充実
- ④ 通級指導教室の整備と実施
- ⑤ 個別最適および協働的な学習の推進

〔5〕 具体的な数値目標

- ① 「わかる・できる」授業を実践するため、年2回の授業改善旬間を設定する。
- ② 主体的に学ぶ力を涵養し、成績優良者12.5%を目指す。
- ③ 学習に困難が伴う生徒に対して丁寧な支援を行い、欠点科目0を目指す。
- ④ 朝読書を充実・改善し、生徒1人あたりの年間平均貸出冊数10冊以上を目指す。
- ⑤ 規則正しい生活や自己管理の大切さを説き、出席率、皆出席者の割合、欠席0（皆勤含む）者の割合の向上を目指す。
- ⑥ 平素の生徒観察・校内外の情報共有を丁寧に行い、問題行動0を目指す。
- ⑦ 交通安全の意識向上に努め、交通事故を0とする。
- ⑧ キャリア教育の充実を図り、就職内定率100%を目指す。
- ⑨ 目標達成に通じる学力・探究する力を身に付けさせ、進学合格率100%を目指す。

山形県立遊佐高等学校 スクール・ミッション、スクール・ポリシー

本校に期待される社会的役割（スクール・ミッション）

地域とともにある高等学校として、少人数学習のもと、地域の教育力や教育資源を活用する「ふるさとキャリア教育」や長期のインターンシップである「デュアル実践」等の学校独自に設定した教科等の実践を通して、地域に学び、人や地域社会との関わりを大切に自分の将来を思い描き、地域を元気にする人間を育成します。

本校における「三つの方針」（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）

<このような力を育てます>

- 進んで学び、課題に挑戦する意欲を持って、たくましく行動する力を育成します。
- 故郷を愛する心を持ち、地域社会を発展させる力を育成します。
- お互いを思いやる気持ちを持って行動できる豊かな人間性を育成します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

<このような教育活動を行います>

- 地域に学び、地域社会で生きていく力を身につけることができるよう、地元企業等と連携して長期・短期のインターンシップを実施します。
- 故郷を愛する心を持ち、人や地域社会との関わりを大切にする力を身につけることができるよう、地域体験学習として「ふるさとキャリア教育」を実施します。
- お互いを思いやる気持ちを持って行動できる力を身につけることができるよう、ボランティア活動等の地域貢献活動や福祉活動を実施します。
- 中学校までの学習内容の学び直しを取り入れた学習活動を実施します。

入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

<このような生徒を待っています>

- 総合学科の学習に興味を持ち、自分の目標に向かって学び続ける意欲がある生徒を募集します。
- 故郷の文化や伝統を大切に、地域を元気にする意欲がある生徒を募集します。
- ボランティア精神があり、他者と協働し地域社会に貢献しようとする生徒を募集します。

2 各年次の目標と方針

【1 年次】

1 年次目標

- ・授業や家庭学習などを通し学習習慣を定着させ、学ぶ意義や達成感、楽しさを感じさせる。
- ・基本的生活習慣（挨拶、身だしなみ、時間や期限を守ること等）を確立させる。
- ・いじめを防ぎ、自他を尊重しながら互いに成長できる集団を形成させる。
- ・「産業社会と人間」の授業と進路学習をリンクさせ、生徒が自己の将来について考えさせる。

2 指導方針

(1) 学習指導

- ・授業を大切にし、家庭での学習習慣が定着するように指導する。
- ・朝学習、テスト前学習会等を通し、自分の学力や成績に対して意識できる環境を作る。
- ・欠点科目0を目指し、学習に困難が伴う生徒や成績不振者に対して、家庭と連携しながら支援を行う。
- ・成績優良者3名以上を目指し、成績上位者に対する励ましと意識付けを行う。

(2) 生徒指導

- ・高校生としての身だしなみ、態度や言葉遣いなどを意識的に実践させる。
- ・小さなことでも保護者と連絡を取り合い、情報や考えを共有しながら問題行動0を目指す。
- ・様々な行事を通して、他者と関わる機会や場面を作り、自己理解を深め社会的態度を育成する。
- ・ユニバーサルデザインの視点に立ち、生徒の多様な学びの場となる教室環境を整える。
- ・いじめアンケートや諸調査、面談などを通して、問題の早期発見と早期解決を目指し、個々と集団の成長やお互いを認め合う態度の伸長を促す。

(3) 進路指導

- ・「産業社会と人間」と進路指導をリンクさせ、自己理解を深めながら進路目標の設定や実現への方法を学ばせる。
- ・進路志望実現に向けた適切な科目選択ができるように、ガイダンスや進路面談を充実させる。
- ・年次だよりを発行し、進路情報や年次の指導の情報を提供し、家庭との連携を図る。
- ・求人票やオープンキャンパス案内など、就職や進学に関する具体的情報を提供する。

(4) 保健指導

- ・年間を通して生活リズムを整えることや健康管理や出席することの大切さについて指導し、年間の皆勤が20%以上、出席率は97%以上を目指す。
- ・清掃用具の使い方、清掃の仕方、ごみの持ち帰り、学習する教室の整理整頓、清潔な生活の仕方について指導する。

(5) その他

- ・支援委員会と連携し、個々の生徒の特性や気質をふまえながら必要な指導や支援を行う。

【2 年次】

1 年次目標

- (1) 基本的生活習慣（あいさつ・返事、身だしなみ、時間や期限を守る）を徹底させ、高校2年次生としてふさわしい教養を身につけさせる。
- (2) 学力向上や資格取得を目指し、生徒が学習に取り組む習慣を身に付けさせる。
- (3) 自他の良さを認め、集団の中で自己の役割や責任を果たすことができるようにする。
- (4) 1年次からの進路別学習を、活動を通して深化・具体化できるようにする。

2 指導方針

(1) 学習指導

- ①平素から教科担当者との情報交換を密にして、生徒一人一人に適切な指導を行う。
- ②生徒の学習の積み重ねや成果が見える具体的な進路情報を提供し、3年次の進路実現を意識した動機付けを行う。
- ③成績優良者3名以上を目指し、成績上位者に対する励ましと意識付けを行う。
- ④欠点科目0(ゼロ)を目指し、学習に困難が伴う生徒や成績不振者に対して、家庭と連携しながら支援を行う。

(2) 生徒指導

- ①約束と時間を守り、身だしなみを整え、2年次生としてふさわしい態度(あいさつ・返事を含む)や言動を指導する。
- ②いじめ0(ゼロ)、問題行動0(ゼロ)を目指し、生徒の特性を理解したきめ細やかな支援を行い、平素の観察、校内外や保護者との情報共有、いじめアンケートの活用を図る。
- ③学校行事、部活動、委員会・係、ボランティア、各種資格取得などの活動の重要性を理解させ、積極的に取り組ませる。
- ④ユニバーサルデザインの視点に立ち、生徒の多様な学びの場となる教室環境を整える。
- ⑤家庭・学校との連携を図るために、年次便りを定期的に発行して情報提供する。

(3) 進路指導

- ①2年次、3年次と継続的な「総合的な探究の時間」の計画を立て、実行する。
- ②望ましい職業観を育成し希望の進路を実現させることを目標に、デュアル実践、進路ガイダンス、進路希望調査、進路面談、キャリアカウンセリングを計画的に実施する。
- ③丁寧な面談を通して自己理解を深め、将来に活かすことのできる自己決定力を育てる。
- ④生徒に就職や進学に関する具体的な進路情報を提供する。

(4) 保健指導

- ①心身ともに健康的な学校生活を送ることを目指し、規則正しい生活や自己管理の大切さを理解させ、実践させる。
- ②清掃の仕方や用具の使い方、ごみの持ち帰り、教室内の整理整頓、机の中やロッカーの使用の仕方等、清潔な生活の仕方について指導する。

(5) その他

- ①修学旅行の事前・事後指導、保護者への説明を丁寧に行い、安全・安心を心掛けた旅行を実施する。
- ②支援委員会及び外部施設や医療機関とも連携を取り、生徒一人一人を適切に支援する。

【3年次】

1 年次目標

- (1)進んで学ぶ態度を身に付けさせ、課題に挑戦する意欲を喚起し、進路目標を実現させる。
- (2)自他の良さを認め、集団の中で自己の役割や責任を果たすことができるようにし、互いに成長できる集団を形成させる。
- (3)地域と関わり行動できるよう、行動力や人格を育む。

2 指導方針

(1) 学習指導

- ①基本的生活習慣(あいさつ・返事、身だしなみ、時間や期限を守る)を徹底し、自己実現に向けて自主的に学習する環境をつくる。
- ②生徒の学習の積み重ねや成果が見える具体的な進路情報を提供し、進路実現を意識した動機付けを行う。

- ③成績優良者8名以上を目指し、成績上位者に対する励ましと意識付けを行う。
- ④欠点科目0(ゼロ)を目指し、学習に困難が伴う生徒や成績不振者に対して、家庭と連携しながら支援を行う。

(2) 生徒指導

- ①時間を守り、身だしなみを整え、最高年次としてふさわしい態度(あいさつ・返事を含む)や言動を指導する。
- ②いじめ0(ゼロ)、問題行動0(ゼロ)を目指し、生徒の特性を理解したきめ細やかな支援を行い、平素の観察、校内外や保護者との情報共有、いじめアンケートの活用を図る。
- ③学校行事、部活動、委員会・係、ボランティア、各種資格取得などの活動も大切であることを理解させ、積極的に取り組ませる。
- ④ユニバーサルデザインの視点に立ち、生徒の多様な学びの場となる教室環境を整える。
- ⑤家庭・学校との連携を図るために、年次便りを定期的に発行して情報提供する。

(3) 進路指導

- ①進路に関わる行事や企画を計画実践し、合格内定を勝ち取る実力を身につけ、就職・進学率100%を目指す。
- ②キャリアパスポートによる年度当初の計画と振り返りにより、将来の展望を意識させる。
- ③個々に応じた進路目標実現ができるよう、ガイダンス・面談を充実させる。
- ④進路に関するスペースを確保・整備し、進路目標に取り組む意識を持たせる。
- ⑤進路活動を通じて、社会人としての心構えを育成する。

(4) 保健指導

- ①年間欠席0(ゼロ)数30%(6人)、出席率97%以上を目指し、規則正しい生活や自己管理の大切さを理解させ、実践させる。
- ②清掃用具の使い方、清掃の仕方、ごみの持ち帰り、学習する教室の整理整頓、清潔な生活の仕方について指導する。

(5) その他

- ①年次PTAや運転免許取得説明会等では、保護者への説明を丁寧に行い、連携を図っていく。
- ②支援委員会及び外部施設や医療機関とも連携を取り、生徒一人一人を適切に支援する。

3 各部の重点目標

(1) 教務キャリア部

◎教務キャリア部重点目標

- ア 本校生徒が抱える課題に対して、より適切な対応ができるよう研究を行う。
 - ・基礎学力の定着を図る指導の研究・実践を進める。
 - ・生徒の学びが、より主体的、対話的で深い学びとなるよう、研究・実践を進める。
 - ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境の整備を進める。
- イ 指導力向上のための環境づくりを行う。
 - ・年2回授業改善旬間を設定し、教員相互の授業参観を通して「わかる・できる」授業の実践に取り組む。
 - ・AI教材の活用により、生徒一人一人の学力に応じた基礎学力の定着を図る。
 - ・生徒の実情に応じた教育課題をテーマに研修会を実施し、共通理解を図る。
- ウ オープンスクールや中学校での説明会等で広報活動を行い、本校の魅力を中学生に伝える。
- エ 令和8年度山形県公立高等学校入学者選抜(前期(特色)入試、後期(一般)入試)入試、WEB出願等の業務を円滑に進める。

◎図書部重点目標

- ア 図書館の整備と利用指導を強化する。
- イ 読書意識の高揚に努め、朝読書を充実・改善し、生徒1人当たりの年間平均貸出冊数10冊以上を目指す。
- ウ 図書委員会の自主的活動を活発にする。
- エ 図書館及び視聴覚関係設備の円滑な管理運営にあたる。

◎庶務部重点目標

- ア 関係団体との連携を深め、その運営が円滑になされるよう協力する。
- イ 式典等の行事については、職員生徒の意見を反映させながらも、できる限り定型化する図書委員会の自主的活動を活発にする。
- ウ 教育用品の有効活用と学習環境の整備に努める。

◎進路指導部重点目標

- ア キャリア教育の実践に取り組む。
 - ・キャリアパスポートを活用する。
 - ・年次間の綿密な連携と教職員間の共通理解。(情報の共有化)
 - ・年次ガイダンスや進路学習の時間、総合的な探究の時間などの活用法を検討。
 - ・インターンシップ内容の充実を図る。
- イ 地域・PTA・支援機関と連携し、進路指導の充実を図る。
 - ・勤労観・社会性の育成。
 - ・社会に通用する服装・挨拶・返事などのマナー指導。
 - ・報(告)連(絡)相(談)を学校生活のあらゆる場面で指導する。
 - ・卒業生への追指導と企業との情報交換・求人開拓。(町内企業、県外・地元企業との連携を密にする)
- ウ 個別指導を充実させる。
 - ・進路指導室の活用促進。(資料閲覧、個別相談などで1・2年次は2回以上、3年次は3回以上)
 - ・生徒の適性・個性の把握。
 - ・面接・作文指導には教職員全員の協力を得て当たる。書類指導、進路面談の実施。
 - ・特別な支援を要する生徒の進路活動を関係機関と連携した指導。

(2) 生徒保健部

◎生徒保健部重点目標

- ア 基本的生活習慣の確立
 - ・遊佐高生ハンドブックの活用を通し、生徒の自律・基本的生活習慣の確立を指導する。
 - ・必要に応じて集会、面談、家庭訪問、校内外の巡視を行い保護者や本校職員以外の人たちと協力して指導を行う。
 - ・職員週番、応援委員による週番の活動、PTAとの連携をとりながら、教職員や外来者に対するあいさつを推進する。
 - ・問題行動特別指導者0(ゼロ)を目指す。
 - ・アンケート調査等から、いじめの早期発見に努め、発生した場合は迅速に学校いじめ防止対策委員会を開催する。
 - ・交通安全の意識向上に努め、交通事故0(ゼロ)を目指す。
 - ・本校の諸規則や規定などを生徒に理解させる。

イ 諸活動の取り組み

- ・生徒会、部活動、ボランティア活動、地域活動等へ積極的に取り組ませる。
- ・年次、部活動、委員会やグループ毎のボランティアの普及拡大に努める。
- ・部活動の活動状況などを把握し、部の再編成等を検討する。
- ・生徒会会計の見直しを継続して行う。

ウ 学校行事と地域連携

- ・遊佐高祭等の学校行事の円滑な運営と成功を図る。
- ・P T Aおよび地域との積極的な連携により、地域社会への貢献を図る。

エ 心身の健康

- ・保健安全委員会の活動をもとに朝食強化週間を設定する。
- ・保健便り、写真ニュース、季節に応じた課題を知らせる。
- ・新型コロナウイルス感染症・インフルエンザの流行状況を把握し、適切な対応をとり、流行の予防に努める。
- ・カウンセラーとの連携により、迅速に支援委員会を開催する。
- ・特別支援が必要な生徒の情報を適宜提供し、職員の共通理解と生徒への適切な支援を行う。

オ 構内の安全管理・美化

- ・防災調査活動を行い、予防を第一にし、危険の早期発見と校舎用具の保全と管理に努め、安全点検を実施する。
- ・ゴミ処理方法の周知、美化の呼びかけを行う。
- ・校内美化週間を設定する。
- ・交通安全の呼びかけと立哨活動を実施する。

(3) みらい魅力室

◎みらい魅力室重点目標

ア 登校環境の充実に取り組む。

- ・通学タクシーの配車と運用を適宜行う。

イ 生徒募集のための町との連携強化

- ・町との連絡・調整に取り組む。
- ・合同説明会への参加。
- ・オンライン説明会の連絡・調整。

ウ 遊佐高の魅力発信を行う。

- ・小規模校サミットへの連絡・調整・参加。
- ・総合学科交流会への連絡・調整・参加。
- ・学校案内パンフレットの作成と配布。
- ・H P掲載の記事が増加するように働きかける。

エ 奨学金の周知・受理・申請の円滑化。

- ・在学時奨学金についての周知・受理・申請を円滑にすすめる。
- ・進学時奨学金についての周知・受理・申請を円滑にすすめる。

オ P T A・後援会と連携し、教育活動を円滑にすすめる。

- ・校内P T Aの開催の企画・周知・実施を滞りなくすすめる。
- ・校外P T Aの開催の周知と参加体制を築く。
- ・後援会の開催の企画・周知・実施を滞りなくすすめる。

4 各教科の指導方針

(1) 国 語

- ア 「わかる授業」に重点を置き、「話す・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三領域に着実な基礎力をつける。
- イ 基礎的な言語能力を身につけさせるとともに、作品の読解・鑑賞を行い、ものの見方・感じ方を学び、思考力や判断力を養う。
- ウ 日本語による表現技術を実践を通して学び、目的や場に応じて適切に表現できる力を養う。
- エ 広く言葉や文化に対する興味・関心を高め、豊かな言語生活を目指す態度を養う。

(2) 地 理 歴 史

- ア 指導内容を精選集約し、基礎的・基本的知識と内容の理解と定着を図る。
- イ 視聴覚教材、ＩＣＴ機器、各資料を活用し、基礎的・基本的知識と内容の理解と定着を支援する。
- ウ 身近にある具体的な教材を活用し地理・歴史に対する関心を高める。
- エ 学習内容と関連させるなどして、新聞学習を取り入れる。
- オ 体験的な学習や調べ学習を導入し、生徒の主体的な学習を促す。

(3) 公 民

- ア 指導内容を精選集約し、基礎的・基本的知識と内容の理解と定着を図る。
- イ 視聴覚教材、ＩＣＴ機器、各資料を活用し、基礎的・基本的知識と内容の理解と定着を支援する。
- ウ 学習内容と関連させるなどして、新聞学習を取り入れる。
- エ 問題演習等を継続的に実施し、知識を定着させる。
- オ 体験的な学習や調べ学習を導入し、生徒の主体的な学習を促す。

(4) 数 学

- ア 生徒の実態を把握して丁寧かつ分かりやすい指導をする。
- イ 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確かつ能率的に活用する能力を伸ばすように指導する。
- ウ 問題解決のための思考過程や考え方を重視し、評価できるようにする。

(5) 理 科

- ア 生徒の実態に即した授業展開を研究し、基本的事項の定着を重視する。
- イ 実験、観察、作業、報告書作成などを通して、生徒に考えさせる授業を展開する。
- ウ 視聴覚機器やＩＣＴ機器を積極的に活用し、理解が深められるよう指導する。
- エ 生徒実験のための器具・設備を充実させ、危険防止対策の整備を図る。

(6) 保 健 体 育

[体育・スポーツⅠ・スポーツⅡ]

- ア 運動の楽しさや喜びに触れさせ、生涯を通して継続して運動できる能力を育てる。
- イ 自己の健康に気づき、基礎体力と運動能力の向上に努める。
- ウ 各運動領域において、公正、自律、協力、責任等の社会的態度を育てる。

[保 健]

- ア 自己の心身の状態に気づき、心身の健康を積極的に保持・増進させる能力と態度を育てる。
- イ 自然環境の保全に対する認識を高め、人間をとりまく環境との調和を図りながら健康な生活を実践できる能力や態度を育成する。
- ウ 国民の健康を職業生活や家庭生活の面から理解させ、集団の健康を高めることに寄与する能力と態度を育成する。

(7) 芸 術

[音 楽]

- ア 音楽活動の楽しさを体験させ、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
- イ 歌唱、器楽、創作などの表現活動の中で、基礎力を養いながら自己を表現する喜びを味わわせる。
- ウ 様々な楽曲に親しませ、鑑賞能力を養うとともに、自己表現に生かす態度を養う。
- エ 自己のイメージをもち、個性豊かで創造的な表現をするための技能を身につけさせる。

[美 術]

- ア 美術の基礎能力を高め、表現する能力を修得し、創造的に表現する態度を養う。
- イ 制作活動に必要な素材の性質や基礎的な用具の使い方を身につける。
- ウ 優れた作品に親しませ、鑑賞能力を高めるとともに美術を愛好する態度を養う。
- エ 美術を通して他の人々とコミュニケーションし、ともに作品を楽しむ心を育成する。

(8) 英 語

- ア 中学校の既習事項から丁寧に復習し、基礎基本の定着を図る。
- イ 様々な英語を聞いたり読んだりして、内容を理解する能力を養う。
- ウ 日常的な話題や自分自身のことについて、話したり書いたりする能力を養う。
- エ 教材を精選し、生徒に合った指導方法を研究する。
- オ 関連資料や情報を提示して、外国の生活や文化に関心を持ち、尊重する態度を養う。
- カ 実用英語技能検定準2級合格を目標に、学習に計画的に取り組ませる。

(9) 家 庭

- ア 家庭生活全般に関する知識と技術をしっかりと身につけさせる。
- イ 広く社会との関連において家庭生活の充実向上を図る態度と能力を養い、創造性豊かな人間の育成を図る。
- ウ ICTを活用しながら、生徒の興味関心を引き出すとともに、ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりに努める。

(10) 情 報

- ア コンピュータや携帯電話（スマホ）を使用したトラブルなどの実際例を通じて、情報モラルの規範意識を身につけさせる。
- イ 身のまわりにある具体的な問題を解決する実習を通し、解決の手順の大切さを体験させる。
- ウ 伝達する情報にはそれに適した提示方法があることを実習を通して理解させる。
- エ 情報の総合的な処理の仕方について実習を通して理解させる。
- オ 情報技術の活用能力の向上を図り、生徒自らの力で自らの考えをまとめられるように指導する。

(11) 商 業

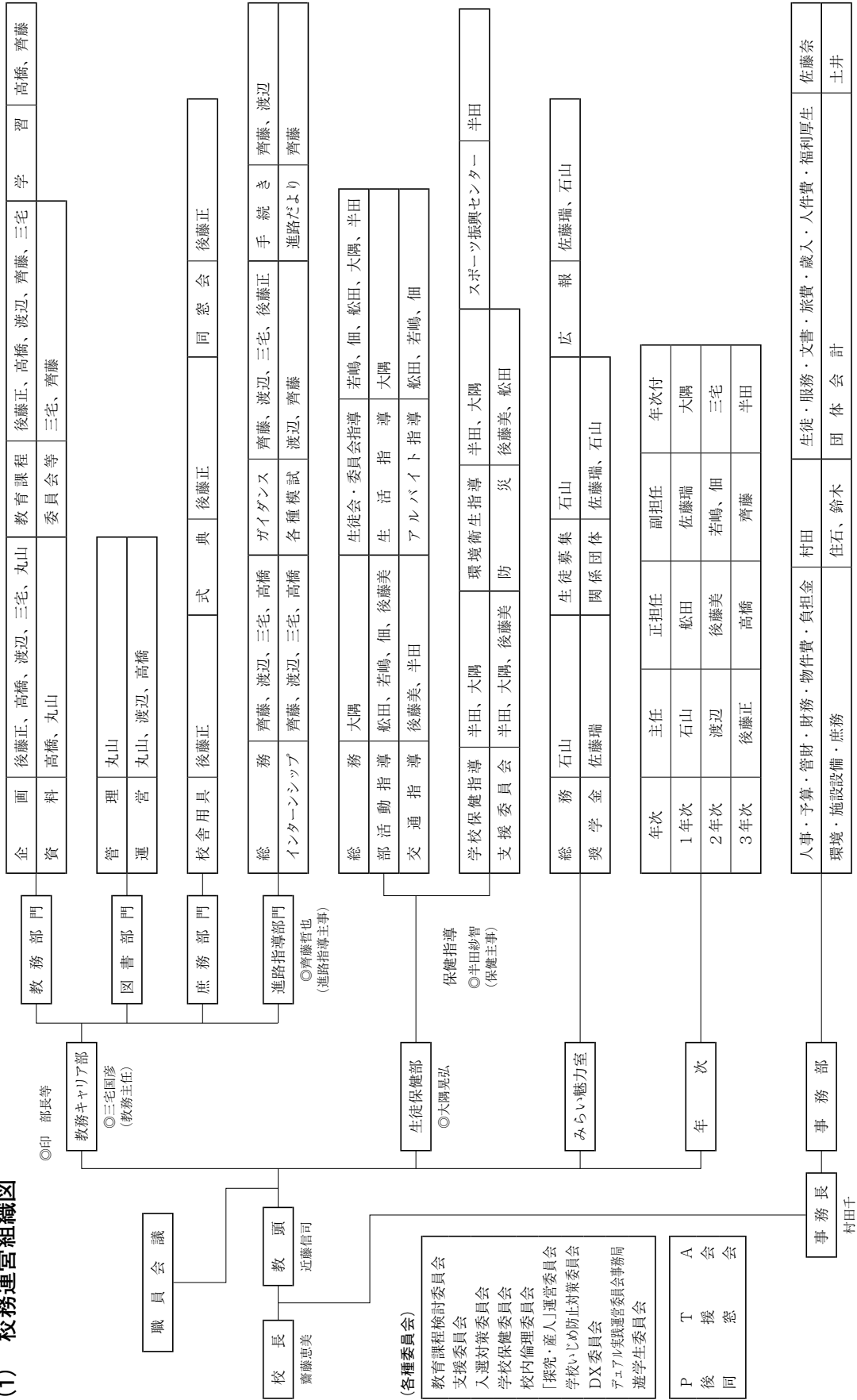
- ア 簿記の基本原則を理解させ、商取引を正確明瞭に記帳する知識と技術を習得させる。
- イ ビジネスに関する基礎的な知識や技術を習得させる。
- ウ ビジネスの諸活動における情報処理の基本を理解させる。
- エ ワープロ検定・情報処理検定・文書デザイン検定・簿記実務検定・商業経済検定・文章入力スピード認定の資格検定取得に積極的に取り組ませる。
- オ 遊佐町内の企業で行われている観光ビジネスについての理解と分析を深め、観光の振興策を考察して提案することを適切に取り組ませる。

(12) 産業社会と人間

- ア 福祉施設訪問やインターンシップなど様々な活動や体験を通して、自己理解を促すとともに健全な職業観・勤労観を育成する。

5 学校運営組織

(1) 校務運営組織図



(2) 各種委員会

(◎印：委員長、○印：主担当)

① 教育課程検討委員会

◎教頭、○教務キャリア部長、各教科主任、担当教務

② 支援委員会

◎教頭、○特別支援コーディネーター、保健主事、生徒保健部長、教務キャリア部長
当該年次主任・担任

③ 入選対策委員会

◎教頭、○教務キャリア部長、生徒保健部長、5教科主任、担当教務

④ 学校保健委員会

◎校長、○保健主事、教頭、事務長、校医、学校薬剤師、PTA会長

⑤ 校内倫理委員会

◎校長、○教頭、生徒保健部長、職場代表

⑥ 「探究・産人」運営委員会

◎校長、○教頭、教務キャリア部長、各年次担当

⑦ 学校いじめ防止対策委員会

◎校長、○生徒保健部長、教頭、教務キャリア部長、養護教諭、当該年次主任・担任

⑧ DX委員会

◎教頭、○校内ネットワーク担当

⑨ デュアル実践運営委員会事務局

◎校長、○商業科、○町商工会担当者、家庭科、教頭、町産業課担当者、教育コーディネーター

⑩ 遊学生委員会

◎校長、○教頭、○町役場担当者、教務キャリア部長、生徒保健部長、各年次から1名
暮らしのコーディネーター、教育コーディネーター

6 教 職 員 一 覧

(1) 教 職 員 構 成

校 長	教 頭	教 諭	常 勤 講 師	養 護 教 諭	非 常 勤 講 師	事 務 長	事 務 次 長	学 校 司 書	学 校 技 能 員	特別支援 教育支援員	校 務 補 助	事 務 補 助	計
1	1	11	1	1	5	1	1	1	2	1	1	1	28

(2) 教 職 員 一 覧

(○印は部長、主任)

No.	職 名	氏 名	教科(科目)	分掌部	主任・正副担任	年次	部 顧 問
1	校 長	齋藤 恵美					
2	教 頭	近藤 信司	理科(化)				
3	事 務 長	村田 千					
4	教 諭	渡辺まり子	国語	教務キャリア	2年次主任	2年	美術
5	〃	後藤 美穂	地歴・公民	生徒保健	2の1正	2年	美術
6	〃	大隅 晃弘	地歴・公民	○生徒保健		1年	男子バスケットボール/ソーラン
7	〃	高橋 紘人	数学・情報	教務キャリア	3の1正	3年	ビジネスライセンス
8	〃	船田 征位	数学・情報	生徒保健	1の1正	1年	総合運動
9	〃	三宅 国彦	理科(生)	○教務キャリア		2年	遊佐みらい
10	〃	佃 悠帆	保健体育	生徒保健	2の1副	2年	
11	〃	齊藤 哲也	英語	教務キャリア	3の1副	3年	陸上競技/総合運動
12	〃	佐藤 瑞穂	家庭	みらい魅力	1の1副	1年	ソーラン
13	〃	石山 良一	商業	みらい魅力	○1年次主任	1年	ビジネスライセンス/遊佐みらい
14	〃	後藤 正樹	商業	教務キャリア	○3年次主任	3年	陸上競技
15	常 勤 講 師	若嶋 孝	保健体育	生徒保健	2の1副	2年	男子バスケットボール
16	非 常 勤 講 師	畠中 裕之	理科(生)				
17	〃	澤田 美佳	保健体育				
18	〃	坪沼 陽子	音楽				
19	〃	菅原 温子	美術				
20	〃	高橋 邦子	家庭				
21	養 護 教 諭	半田 紗智		生徒保健		3年	
22	事 務 次 長	佐藤 奈美					
23	学 校 司 書	丸山 二三					
24	学校技能員	住石 聡					
25	〃	鈴木 良					
26	特別支援教育支援員	工藤 美香					
27	校務補助員	兵藤 幸輔					
28	事 務 補 助	土井 洋子					

(3) 学校医、学校薬剤師

学 校 医 (内 科)	佐 藤 卓	学 校 医 (眼 科)	土 谷 大仁朗	学 校 医 (耳鼻科)	荻 原 徹
学 校 医 (歯 科)	土 門 宏 典	学校薬剤師	沖 優 也		

7 教 育 計 画

(1) 教 育 課 程 表

令和5年度、令和6年度、令和7年度入学生用

1 年次履修科目（必修科目◎、選択必修科目○、学校設定科目●）

系列	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	共通履修科目																													
全系列	◎ 現代の 国語	◎ 言語文化	◎ 公共	◎ 地理総合	◎ 数学Ⅰ			◎ 科学と 人間生活	◎ 体育	◎ 保健	○ 音楽Ⅰ ○美術Ⅰ	◎ 英語コミュニケー ションⅠ		◎ 家庭総合		◎ 情報Ⅰ	● 産業社会 と人間	ホーム ルーム 活動												

2 年次履修科目（必修科目◎、選択必修科目○、学校設定科目●）

系列	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	共通履修科目																	選択履修科目										共通履修科目		
																		系列基礎科目											異年次履修	
教養系列	文学国語				◎歴史総合		○化学基礎 ○生物基礎		◎体育			◎保健		英語コミュニケーションⅡ			◎家庭総合		論理・表現Ⅰ		数学Ⅱ		数学A 化学基礎 生物基礎		スポーツⅡ 音楽Ⅱ 美術Ⅱ		◎総合的な探究の時間		ホームルーム活動	
地域共生系列																			デュアル実践											服飾手芸 ビジネス基礎

3 年次履修科目（必修科目◎、選択必修科目○、学校設定科目●）

系列	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	共通履修科目										選択履修科目																	共通履修科目		
											選択3 A		選択3 B		選択3 C		選択3 D	選択3 E	選択3 F	異年次履修										
全系列	国語表現			◎体育			英語コミュニケーションⅡ			●生涯芸術・音楽 ●生涯芸術・美術 論理・表現Ⅱ	スポーツⅠ 観光ビジネス		政治・経済 数学Ⅱ 保育基礎		地理探究 ●ジオパーク探究 生活と福祉 情報処理		日本史探究 フードデザイン 簿記		化学 生物 ●地域デザイン ●文書デザイン		スポーツⅡ 音楽Ⅱ 美術Ⅱ 情報処理 ●コミュニケーション技能			◎総合的な探究の時間		ホームルーム活動				

		1 年次	2 年次	3 年次
各教科・科目及び総合的な学習の時間の単位数		29	29	29
卒業までに修得すべき単位数		74		
特別活動	ホームルーム活動 (週当たり時数)	1 (毎週金曜日5校時)	1 (毎週金曜日5校時)	1 (毎週金曜日5校時)
	生徒会活動 (時間数)	11 生徒会対面式、新入生歓迎行事、生徒総会（前・後期）、生徒会役員選挙、 クラスマッチ	11	11
	学校行事 (時間数)	110 新任式、始業式、終業式、入学式、新入生オリエンテーション、学びの基礎 診断、身体測定、保護者と生徒で学ぶ進路講話、1年小中高合同海岸清掃、 創立記念式典、避難訓練、1年保健講話、3年救急救命講習、遊佐高祭、 1・2年ツアーデーマーチ、3年模擬面接会、デュアル実践発表会、1年企業学校 見学、2年修学旅行、1年インターンシップ、総合的な探究の時間発表会、薬 物防止講話、進路体験発表会、表彰式、同窓会入会式、卒業式、修了式、 離任式	108	96
	授業の1単位時間	50分		

(2) 総合的な探究の時間

① 目 標

- ア 大きな視点で現代社会の課題を捉え、生徒各々が自らの興味関心や在り方生き方を見つめることで、主体的に探究すべき課題を見つける。
- イ 各教科科目で養った資質能力を活かして、自ら見つけた課題の解決に向けて、様々な角度から探究活動を行う。

② 指導方針

ア 生徒が、実社会や実生活と自己との関わりの中から問いを見出し、自分で課題を立てることが出来るように指導する。

イ 課題解決に向け、自ら主体的に考え、行動できるように指導する。

ウ 生徒の活動が停滞したり、結果として失敗したりすることがあっても、粘り強く伴走する。

(3) 特 別 活 動

ア ホームルーム活動

(ア) 設 置 時 間

① ホームルーム活動（HR） 金曜日 5 校時

② ショートホームルーム（SHR） 毎日朝 5 分間・金曜日 6 校時終了後 5 分間

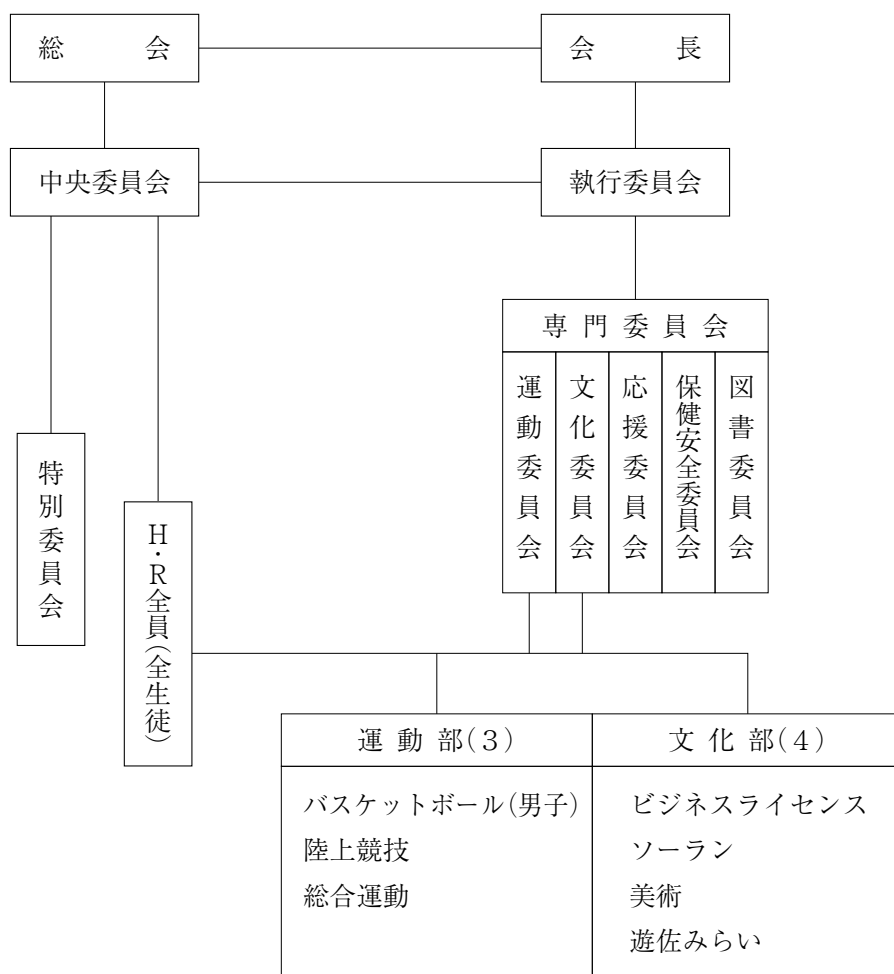
(イ) 指導目標と計画

① 学期ごとに目標を掲げ、共同生活、生き方、進路、安全、その他の 5 領域に配列する。

② 各 HR の計画作成に当たっては、ホームルームの特性、生徒の意向等を基本として学校行事等を勘案し、単元を選択し、配列編成する。

イ 生徒会活動

(ア) 生徒会組織図



(イ) 生徒会行事

4 月	クラス役員選出 各種委員会 対面式 部紹介 部登録
5 月	生徒総会 壮行式
7 月	遊佐高祭
9 月	壮行式 生徒会役員選挙 クラス役員選出 各種委員会
10 月	生徒総会 壮行式
11 月	壮行式 クラスマッチ

(ウ) 委員会担当

専門委員会	中 央 委 員 会	後藤(美)・大隅
	運 動 委 員 会	若嶋・三宅
	文 化 委 員 会	後藤(正)・佐藤
	応 援 委 員 会	石山・高橋(紘)
	保 健 安 全 委 員 会	半田・大隅
	図 書 委 員 会	渡辺・丸山・齊藤

(エ) 部顧問

		正顧問	副顧問
運 動 部	陸 上 競 技	後藤(正)	齊藤
	男子バスケットボール	若嶋	大隅
	総 合 運 動	船田	齊藤
文 化 部	ビジネスライセンス	高橋(紘)	石山
	ソ ー ラ ン	佐藤	大隅
	美 術	後藤(美)	渡辺
	遊 佐 み ら い	三宅	石山

項目	4月	5月	6月	7・8月	9月	10月	11月	12月	11月	2月	3月	
保健教育	健康診断を受け、健康の状態を把握しよう	疾病予防と早期発見に努めよう	疾病治療の継続と梅雨対策をしよう	自主的な健康管理に努めよう	生活習慣を確立しよう	目の健康に留意しよう	健康を意識した生活をしよう	冬の健康管理をしっかりとしよう	寒さに向けての体力増強をはかろう	心身の健康生活を実践しよう	1年間の生活を反省しよう	
	保健体育	私たちの健康の姿 思春期と健康	健康の考え方 結婚生活と健康	食事と健康 加齢と健康	医薬品と健康 感染症の予防 保健制度と保健サービスの活用	エイズとその予防 健康にかかわる意思決定・行動選択	欲求と適応機制 心身の相関とストレス	欲求と適応機制 心身の相関とストレス	ストレスの対処 自己実現	交通事故の現状と要因 交通安全における運転者の資質と責任 働くことと健康		
	家庭総合	ライフステージ	人間の食べ物 食品と栄養	食中毒		食品の取り扱い方	みんなであそぶ 生命の誕生		人間と住まい			
	保健学習			腹のつくりと働き 筋組織と働き	内部環境としての体液	代謝と呼吸		地球環境とその保全	地球環境とその保全	食料問題 遺伝		
保健指導	発達と保育	生命の誕生 病気と看護	神経のつくりとはたらき	子どもの事故と安全								
	フード・デザイン	食品の取り扱い方	健康に必要な栄養素	食中毒		健康食品と嗜好品						
	1年次ホームルーム活動	◎保健調査 ●清掃指導 ●生活習慣の確立 ●スポーツ振興センター手続き	●部活動と健康管理 ●朝食の大切さ ◎性の講話	●夏休みの健康について ●規則正しい生活	●応急手当について ●朝食の大切さ	●目の健康について ●健康食品と嗜好品	◎薬物乱用防止講話 ◎薬物乱用防止講話	●冬休みの健康について ●規則正しい生活 ●高校生のスキングア	●インフルエンザ予防 ●朝食の大切さ	●規則正しい生活 ●今年度活動の評価	◎春休みの健康について ●今年度活動の評価	
	2年次ホームルーム活動	◎保健調査 ●清掃指導 ●生活習慣の確立 ●スポーツ振興センター手続き	●部活動と健康管理 ●朝食の大切さ	●夏休みの健康について ●規則正しい生活	●応急手当について ●朝食の大切さ	●目の健康について	◎修学旅行中の健康管理について ◎薬物乱用防止講話	●冬休みの健康について ●規則正しい生活 ●高校生のスキングア	●インフルエンザ予防 ●朝食の大切さ	●規律正しい生活 ●今年度活動の評価	◎春休みの健康について ●今年度活動の評価	
保健管理	3年次ホームルーム活動	◎保健調査 ●清掃指導 ●生活習慣の確立 ●スポーツ振興センター手続き	●部活動と健康管理 ●朝食の大切さ ●食中毒予防	●夏休みの健康について ●規則正しい生活	●応急手当について ●朝食の大切さ	●目の健康について	◎救急救命講習 ●消防指導 ●食中毒予防	●冬休みの健康について ●規則正しい生活 ●高校生のスキングア	●インフルエンザ予防 ●朝食の大切さ	◎自宅学習期間中の生活指導 ◎卒業に向けて ●今年度活動の評価	◎卒業式後の生活指導	
	主な学校行事	・定期健康診断	・健康診断 ・朝食強化週間	・遊佐高祭 ・夏休みの諸注意	・朝食強化週間	・目の愛護デー ・修学旅行健康相談 ・クラスマツチ	・修学旅行2年次 ・薬物乱用防止講話 ・学校保健委員会 ・衛生委員会	・大掃除 ・朝食強化週間	・大掃除 ・朝食強化週間	・大掃除 ・春休みの諸注意		
	個別指導	・健康診断の受け方 ・保健室の利用の仕方 ・健康診断治療報告	・望ましい生活リズム ・心身の健康	・菌肉炎の予防 ・食中毒の予防	・障害の防止 ・応急手当の方法	・正しい姿勢と視力 ・修学旅行前健康相談	・インフルエンザ予防 ・うがい、手洗い	・インフルエンザ予防 ・冬休みの生活	・感染症予防 ・火気使用上安全対策	・冬の体力と予防	・1年間の生活の反省	
	集団指導	・年間計画作成 ・感染症の予防	・感染症の予防 ・熱中症予防対策	・感染症の予防 ・熱中症予防対策	・感染症の予防 ・熱中症予防対策	・感染症の予防 ・熱中症予防対策	・感染症の予防	・感染症の予防	・感染症の予防 ・保健安全委員会	・感染症予防	・感染症予防	・1年間の反省
心身・生活	生徒会活動	・身体計測補助 ・保健安全委員会	・保健安全委員会	・保健安全委員会	・保健安全委員会	・保健安全委員会	・保健安全委員会	・保健安全委員会	・保健安全委員会	・保健安全委員会	・保健安全委員会	
	学校生活	・保健調査 ・健康観察 ・健康診断の計画、実施、事後措置 ・疾病異常者一覧作成 ・教育相談・健康相談 ・朝食強化週間 ・支援委員会	・健康観察 ・健康診断の計画、実施、事後措置 ・疾病異常者一覧作成 ・教育相談・健康相談 ・朝食強化週間 ・支援委員会	・健康観察 ・教育相談・健康相談 ・教育相談・健康相談 ・疾病治療状況の把握 ・支援委員会 ・朝食強化週間	・健康観察 ・教育相談・健康相談 ・教育相談・健康相談 ・疾病治療状況の把握 ・支援委員会	・健康観察 ・教育相談・健康相談 ・修学旅行前健康相談 ・支援委員会 ・健康指導 ・修学旅行前健康相談 ・支援委員会	・健康観察 ・教育相談・健康相談 ・支援委員会	・健康観察 ・教育相談・健康相談 ・支援委員会	・健康観察 ・教育相談・健康相談 ・クラスマツチの救護 ・感染症の予防 ・冬季休業事前指導 ・支援委員会	・健康観察 ・教育相談・健康相談 ・感染症の予防 ・支援委員会	・健康観察 ・教育相談・健康相談 ・感染症の予防 ・支援委員会	・1年間の反省 ・新年度の計画 ・支援委員会
	学校環境	・清掃分担区配布 ・清掃指導 ・大掃除	・校内美化週間 ・タニ検査 ・照度検査	・学校環境の安全点検整備(施設・設備) ・ポイラー機能検査 ・電気工作物点検 ・電気工作物点検 ・教室の照度検査	・学校環境の安全点検整備(施設・設備) ・地下タンク検査 ・電気工作物点検	・暖房機器の安全点検 ・校内美化週間	・大掃除 ・教室の空気検査 ・教室の照度検査	・大掃除	・大掃除 ・教室の空気検査 ・教室の照度検査	・ストーブの管理 ・校内美化週間	・大掃除 ・清掃用具点検	・大掃除 ・清掃用具点検
	組織活動 (研修含む)	・生徒保健部組織づくり ・保健だより発行 (毎月)		・職員研修会 ・遊佐高祭救護	・職員研修会 ・遊佐高祭救護		・修学旅行保護者説明会	・学校保健委員会 ・衛生委員会		・1年間の反省	・次年度の計画立案	

◎…1単位時間程度の指導 ●…短い時間の指導

●…短い時間の指導

[illegible]

9 災害等防止対策要綱

1. 目的

火災・地震等による被害を未然に防止し、または被害を最小限に抑えて生徒・教職員の安全確保を図る。

2. 災害防止の内容

(1) 火気取締責任者の選任

火気発生の有無の確認、施設の保守点検にあたるため各室に火気取締責任者を選任する。

《火気取締責任者》

	南校舎	北校舎	体育館関係
1階	大会議室 佐藤（奈） 校長室 佐藤（奈） 事務室 佐藤（奈） 休養室（男） 大隅 （旧）休養室（女） 半田 小会議室 住石 技能員室 住石 機械室 住石 ポンプ室 住石	コンピュータ室 高橋 コンピュータ準備室 高橋 倉庫 佐藤（奈） 進路指導室 齊藤（哲） 保健室 半田 第2会議室 大隅 第3会議室 後藤（美） （休養室女） 美術室 後藤（美） 美術準備室 後藤（美）	体育館 若嶋 体育管理室 若嶋 器具庫 若嶋 ギャラリー 若嶋 更衣室・トイレ 若嶋 柔剣道場 若嶋 用具庫 若嶋 倉庫 鈴木
2階	1-1 HR 船田 2A教室 船田 2B教室 船田 生徒会室 若嶋 多目的教室 石山	職員室 近藤 図書室 渡辺 食物実習室 佐藤（瑞）	
3階	3-1 HR 高橋 3A教室 高橋 3B教室 高橋 相談室 後藤（正） 3C教室 後藤（正）	第1視聴覚室 後藤（正） 第1理科実験室 三宅 第1理科準備室 三宅 家庭経営室 佐藤（瑞）	
4階	2-1 HR 後藤（美） 4A教室 後藤（美） 4B教室 後藤（美） 相談室 渡辺 4C教室 渡辺	音楽室 後藤（正） 音楽準備室 後藤（正） 第2理科実験室 三宅 第2理科準備室 三宅 被服実習室 佐藤（瑞）	

(2) 防災設備の保守・点検の実施

- ・防災設備については消防法に基づく外観・機能点検を年1回、総合点検を年1回実施する。
- ・各室火気取締責任者等が防災設備の異常を発見したときは、教頭（防火管理者）又は事務室に連絡する。
- ・令和7年度の防災設備保守点検業者 （株）長谷川商会 酒田営業所 TEL 31-2137

(3) プロパンガスの保守・点検等の実施

- ・各室火気取締責任者及び使用者はガス器具、ゴム管等常時安全の確認を行う。
- ・各室火気取締責任者等が異常を発見した時は、教頭（防火管理者）又は事務室に連絡する。
- ・プロパンガスの保安については、必要に応じガス業者の点検を実施する。
- ・令和7年度のガス納入業者 遊佐石油販売（株） TEL 72-2316

(4) 電気設備の保守・点検等の実施

- ・電気設備の保守・点検は2ヶ月に1回（財）東北電気保安協会で行う。
- ・各室火気取締責任者及び使用者はコンセント・配線等の異常の有無を常時確認する。
- ・各室火気取締責任者等が異常を発見した時は、教頭（防火管理者）又は事務室に連絡する。
- ・雷等での停電事故においては、教頭（防火管理者）又は事務室に連絡し、教頭等は（財）東北電気保安協会 酒田事務所 TEL 22-2780 に連絡する。

(5) 水道施設の保守・点検等の実施

- ・事務室で随時水道施設の保守・点検等を実施するとともに年1回委託会社による貯水槽掃除を実施する。

(6) 化学薬品等の安全な保管

- ・化学薬品等の保管にあたっては、担当教諭が薬品庫に施錠し、地震等での容器等の破損による薬品の流失事故が発生しない措置を講ずる。

(7) 校舎等の安全な維持管理

- ・建物等の破損による落下事故、ガラス戸の立て付け不良等に伴う事故およびその他施設・設備が原因となる事故を未然に防止するため本校教職員全員が常時施設の安全な維持管理に努める。

(8) 校内への無断侵入者の阻止

- ・玄関受付でのチェック、さすまたの校舎内への配置、防犯カメラ（職員玄関1台、昇降口2台、体育館出入口1台）の設置等、無断侵入者の校内への侵入を阻止するために防止策を講ずる。

3. 災害防止の体制

(1) 日常の体制

- ・教頭を防災管理者とし、危険箇所が発生したら事務長は補修等の防止策の措置を講ずる。

(2) 災害発生時の体制

- ・火災等発生の場合の通報先は119番。
- ・通報者は防火管理者（教頭）とし、教頭不在の場合は事務長が、いずれも不在の場合は発見した職員が通報する。
- ・同時に次の業者にも通報する。

A L S O K山形(株) 酒田支社	TEL 23-5551
東北電気保安協会 酒田事務所	TEL 22-2780
東北電力 遊佐サービスセンター	TEL 72-2226
(株)長谷川商会（防災設備業者）	TEL 31-2137

- ・防災管理者は、被害拡大の防止策を講ずる。なお、緊急連絡網は別紙のとおり

4. 避難訓練の実施

- ・生徒保健部が企画立案し、年2回（6月地震を想定、10月火災を想定）避難訓練を実施する。
- ・数ヶ所の災害発生箇所を想定し、何通りかの避難経路を確保する。
- ・緊急避難に関することは各教室等に避難経路等を掲示する。

10 生 徒 の 状 況

(1) 年次別・男女別生徒数

年 次	1 年	2 年	3 年	合 計
科	総合学科	総合学科	総合学科	
学 級	1	1	1	
男 子	16	10	11	37
女 子	16	8	9	33
計	32	18	20	70

(2) 中学別生徒数

出身中 年 次		1 年	2 年	3 年	合 計
遊 佐	男	2	2	3	7
	女	4	2		6
酒 田 一	男	2		2	4
	女	1	1		2
酒 田 二	男	1			1
	女	1			1
酒 田 三	男	2			2
	女	2			2
酒 田 四	男	1	1		2
	女	1			1
酒 田 六	男	2		1	3
	女	4		5	9
鳥海八幡	男	3	2	2	7
	女		1	1	2
東 部	男		1	1	2
	女				0
土 崎 (秋田)	男				0
	女			1	1
下妻東部 (茨城)	男				0
	女		1		1
湯 津 上 (栃木)	男				0
	女		1		1
荒 戸 (栃木)	男				0
	女	1			1
武 里 (埼玉)	男				0
	女	1			1
蓮 田 南 (埼玉)	男			1	1
	女				0
東 浦 和 (埼玉)	男	1			1
	女				0
市 川 二 (千葉)	男		1		1
	女				0

出身中		年 次	1 年	2 年	3 年	合 計
市 川 七 (千葉)	男		1			1
	女					0
おおたかの森 (千葉)	男			1		1
	女					0
八 千 代 (千葉)	男			1		1
	女					0
田 無 三 (東京)	男					0
	女			1		1
調 布 (東京)	男			1		1
	女					0
桜 美 林 (神奈川)	男					0
	女			1		1
湘 南 台 (神奈川)	男		1			1
	女					0
宮 田 (神奈川)	男					0
	女		1			1
増 穂 (山梨)	男					0
	女				1	1
葛 川 (滋賀)	男				1	1
	女					0
阿 倍 野 (大阪)	男					0
	女				1	1
合 計	男		16	10	11	37
	女		16	8	9	33
	計		32	18	20	70

(3) 生徒の通学状況

通学方法		年 次	1 年	2 年	3 年	合 計
徒 歩	男		3	4	2	9
	女		4	4	3	11
自 転 車	男		3	1		4
	女		2	3		5
バ ス	男			1	1	2
	女					0
列 車	秋田 方面	男	1			1
		女				0
	酒田 方面	男	7	2	4	13
		女	9	1	5	15
自 家 用 車 等	男		2	2	4	8
	女		1		1	2

11 進 路 状 況

(1) 令和6年度 卒業生進路状況

		進 学						就 職				進 路 未 定	合 計	就 職 者 職 種 別 数				
														職 種		男	女	計
		四 大	短 大	専 門 学 校	看護医療系	進学先未定	小 計	県 内	県 外	就職先未定	小 計			事 務				0
														販 売		1		1
														サ ー ビ ス		1	1	2
		保 安		2		2												
1	男	1	1	1		3	9	1	(1)	10	13	農 林 漁 業				0		
		生 産 工 程		2	1	3												
	女	1	0	4		5	3	0	(1)	3	8	輸送機械運転				0		
		建 設 採 掘		1		1												
計		2	1	5	0	0	8	12	1	(2)	13	0	21	運搬清掃包装		1		1
		そ の 他		1		1												
備 考		進学希望者数 8名 38.1% 就職希望者数 13名 61.9%										就 職 先 未 定		1	1	2		
												合 計		10	3	13		

(2) 令和6年度 卒業生進路先

【進 学 先】

東北芸術工科大学	芸術学部工芸デザイン学科
東北公益文科大学	公益学部公益学科観光まちづくりコース
東北農林専門職大学附属農林大学校	野菜・花き経営学科 野菜コース
学校法人角川学園専門学校花壇自動車大学校	一級自動車科
大原医療秘書福祉保育専門学校横浜校	医療事務系
学校法人菅原学園仙台総合ペット専門学校	愛玩動物看護科
学校法人日本教育財団東京モード学園	ファッションデザイン学科高度専門士コース
学校法人ホスピタリティ学園エアライン・鉄道・ホテル・テーマパーク専門学校	テーマパーク科

【就 職 先】

《県内就職》

医療法人 健友会 本間病院	介護職員
社会福祉法人 かたばみ会	介護職員
A L S O K 山形 株式会社	A L S O K 空港消防士
東北旭段ボール株式会社	段ボール製造
株式会社 青南商事 酒田支店	金属リサイクル工場作業員 アルトレック職
株式会社 ト一屋	販売員
東北日本ハム株式会社	総合職
有限会社 今野工業	電気土木工
有限会社 木村屋	洋菓子製造

《県外就職》

関東シモハナ物流株式会社 厚木営業所 庫内作業職

《公 務 員》

陸上自衛隊 自衛官

12 図 書 館 概 要

(1) 施 設

図 書 室	147.15㎡
図 書 準 備 室	23.85㎡

(2) 蔵 書

令和7年3月31日現在

総 記	哲 学	歴 史	社 会 学	自 然 学	技 術	産 業	芸 術	言 語	文 学	計
3,256	477	1,269	1,933	1,284	619	212	1,277	336	4,798	15,461

(3) 利用月別貸出数調査 (ただし、館外貸出統計)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
冊数	55	53	66	111	20	28	88	80	50	73	12	0	636

(4) 読 書 傾 向 (%)

総 記	哲 学	歴 史	社 会 学	自 然 学	技 術	産 業	芸 術	言 語	文 学	計
2.5	12.4	1.1	14.2	8.3	4.9	1.1	9.4	2.7	43.4	100.0

13 施 設 一 般

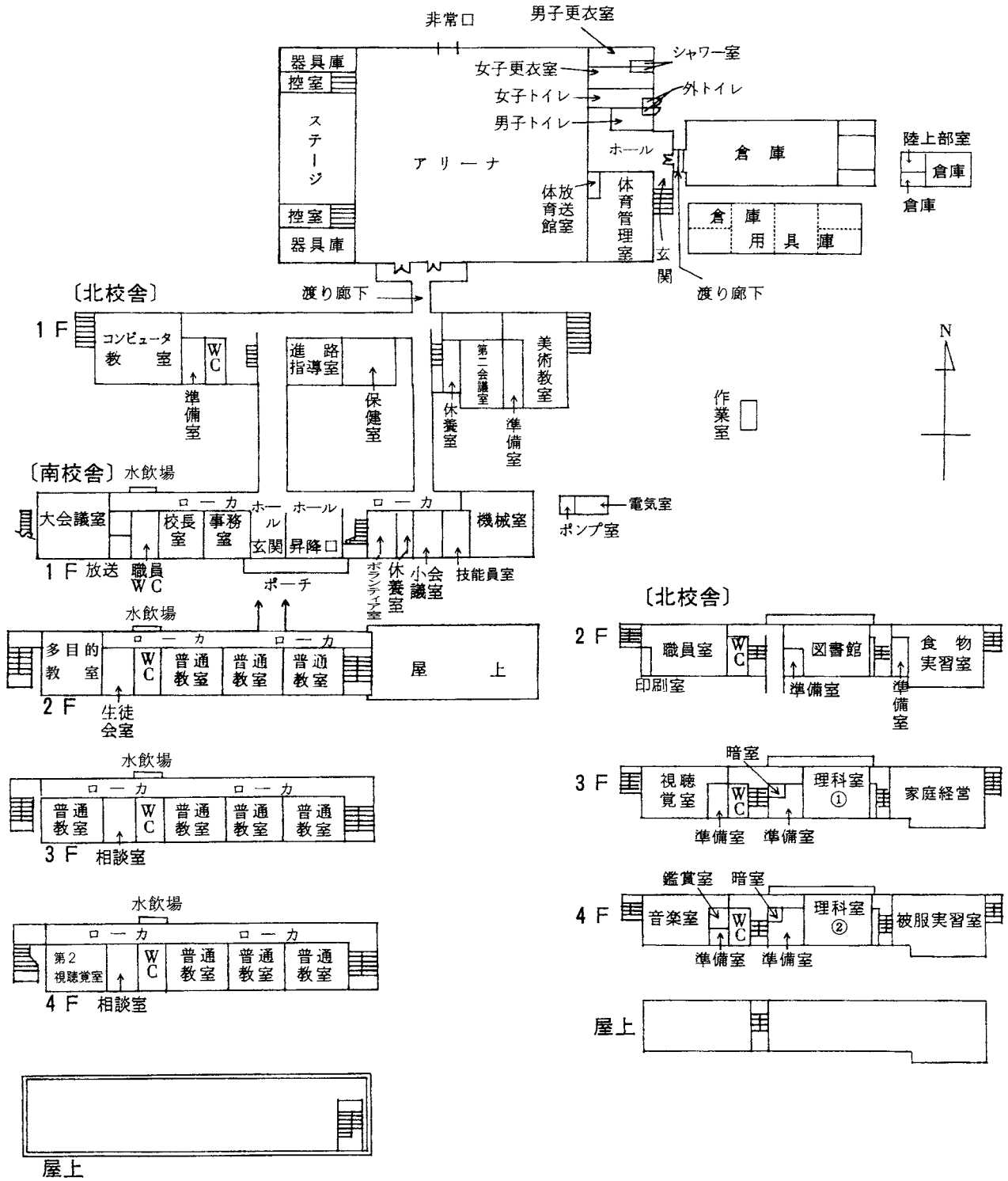
(1) 土 地

区 分	面 積	備 考
校 舎 敷 地	11,603 m ²	
運 動 場	16,615	
自 転 車 置 場	959	
計	29,177 m ²	

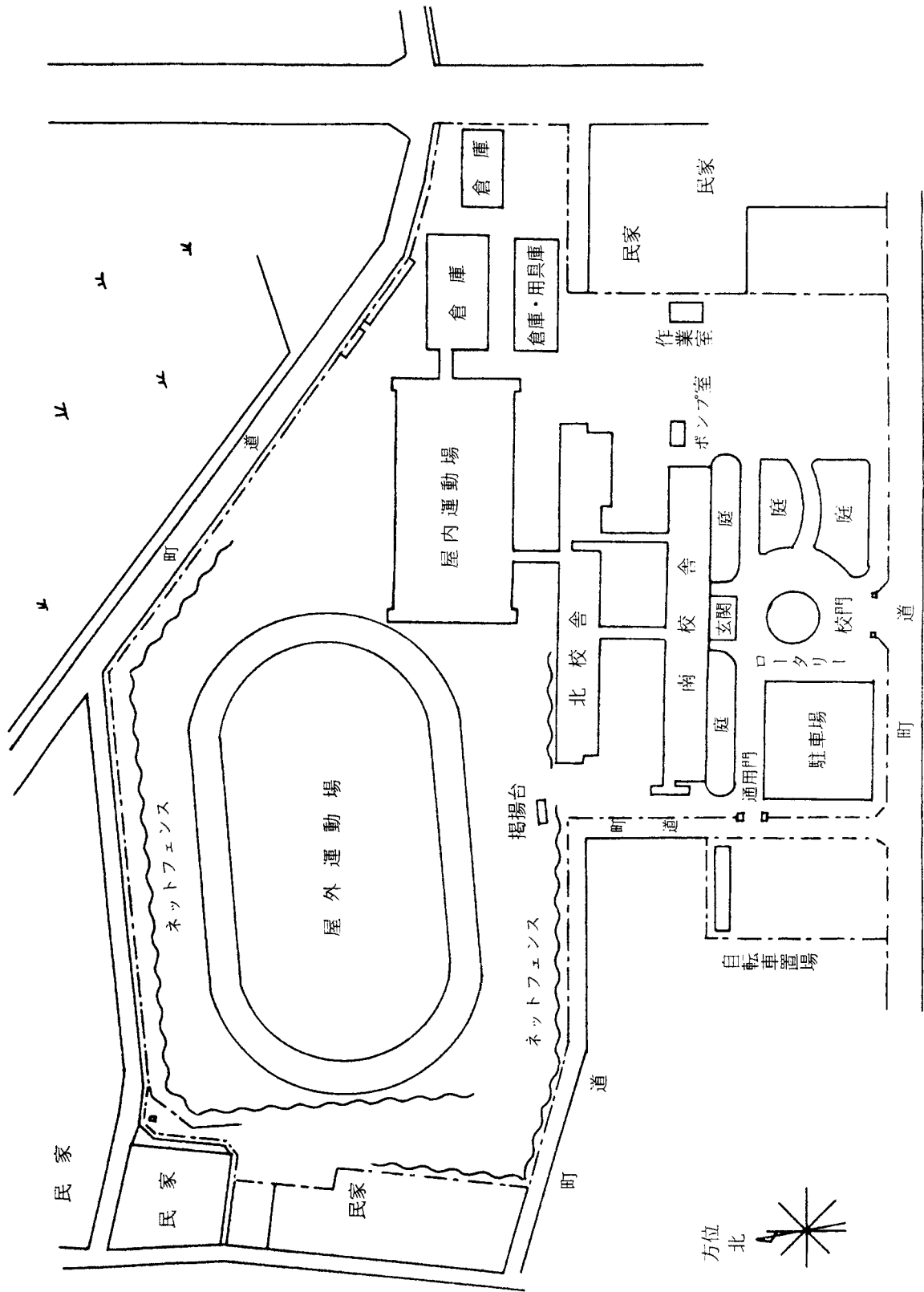
(2) 建 物

区 分	建築年月日	階 段	面 積	備 考
倉 庫	S 42. 3	1	372.09 m ²	旧柔剣道場
作 業 室	S 45. 12	1	39.31	
倉 庫 ・ 用 具 庫	S 46. 12	1	237.24	旧農業実習室
南 校 舎	S 53. 8	4	2,125.08	普通教室棟
階 段 室	〃	4	73.82	
電気室・ポンプ室	〃	1	27.72	
自 転 車 置 場	H 28. 11	1	27.72	
北 校 舎	S 57. 4	4	1,858.64	特別教室棟
〃	〃	4	1,106.60	家庭科実習棟
渡 り 廊 下	〃	2	74.28	
〃	〃	1	32.40	
倉 庫	S 57. 10	1	182.00	陶芸室・車庫
簡 易 倉 庫	S 58. 4	1	5.51	
〃	〃	1	5.51	
室 内 運 動 場	S 61. 3	1	1,725.42	
渡 り 廊 下	〃	1	76.14	
計			7,969.48 m ²	

学 校 平 面 図



学 校 校 配 置 図



14 学 校 運 営 協 議 会

ア 目 的

既存の組織である『遊佐高校支援の会』や『遊佐高等学校魅力化に係る地域連携協議会』、本校同窓会並びに後援会、P T Aと連携し、学校評議員や学校関係者評価委員から得た知見と実績を活用し、法的根拠のある組織へと発展的改編を行い、地域に根差し地域を元気にする学校として、より機能的に運用することを目的とする。

年3回の会を開催し、年度計画の立案、学校課題の検討、地域との連携、年度途中での確認、学校評価を活用して次年度の行動計画を作成する。

イ 学校運営協議会の設置に係る人選分野および意見聴取の観点

人選の分野	意 見 聴 取 の 観 点
学 識 関 係	本校の将来像および本校の取り組むべき課題
進 路 関 係	多岐にわたる生徒の進路希望達成に向けた指導および支援
地 域 連 携	地域（遊佐町・酒田市）との連携および情報交換の推進
社 会 教 育	青少年の健全育成など学社連携および開かれた学校づくりのあり方
P T A 諸団体	保護者、同窓生の学校への支援および協力体制のあり方

ウ 学校運営協議会年間計画

回	開催予定時期	会 議 の 内 容
第1回	令和7年 6月	年間活動計画等について
第2回	令和7年 9月	学校の魅力化推進について
第3回	令和8年 2月	学校評価と次年度に向けての取り組み

エ 学校運営協議会委員

No.	委 員	分 野	No.	委 員	分 野
1	荒木 茂	社 会 教 育	8	鈴木 晴也	地 域 連 携
2	高橋 冠治	地 域 連 携	9	大野 希一	学 識 関 係
3	本多 茂	地 域 連 携	10	大場 克弥	P T A 諸団体
4	太田 佳樹	P T A 諸団体	11	佐藤 憲三	地 域 連 携
5	高橋 繁子	学 識 関 係	12	青木 孝弘	学 識 関 係
6	帶谷 康朗	進 路 関 係	13	齋藤 恵美	本 校 校 長
7	藤川かん奈	地 域 連 携			

15 関 係 団 体

(1) P T A

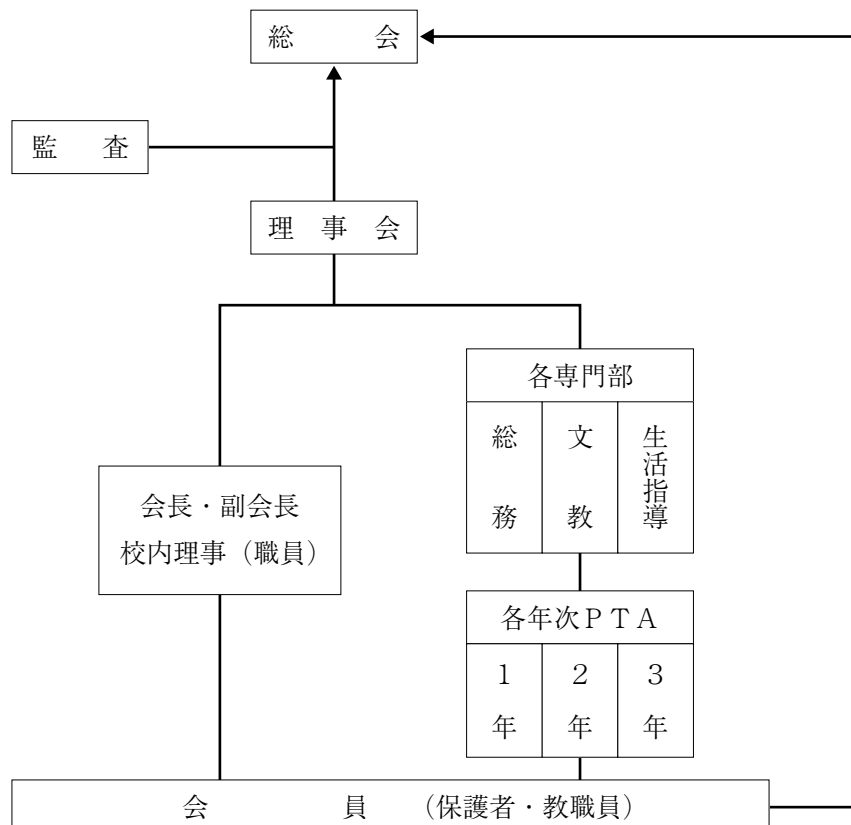
ア 重 点 目 標

- (ア) 年次P T Aを開催し、学校と保護者との連絡を密にする。
- (イ) 専門部の活動を活発化する。
- (ウ) 学校行事に協力・参加し、活発化する。
- (エ) 生徒の進路指導の推進に協力する。
- (オ) 環境の整備と充実に協力する。
- (カ) 会報を充実し、年2回発行する。

イ 本年度の重点事項

- (ア) 家庭への適切な情報伝達と連絡・連携に努める。
- (イ) P T A総会・年次P T A及び学校行事への参加をさらに向上させる。
- (ウ) 朝のあいさつ運動（6、10月）、P T Aによる面接指導（9月）を充実させる。

ウ 機 構



エ 本年度役員

会 長	太 田 佳 樹
副 会 長	常 田 俊 哉 松 本 猛 齋 藤 恵 美 (校長)
総 務 部 長	伊 藤 健 太
文 教 部 長	松 本 亜 紀 子
生活指導部長	阿 曾 光 利
年次委員長	伊 藤 健 太 (3年) 森 岡 浩 一 (2年) 菅 原 満 寿 夫 (1年)
会計監査委員	阿 曾 光 利 (3年) 池 田 里 恵 (2年) 土 門 健 太 郎 (1年)
学 校 理 事	教頭、事務長、みらい魅力室2名、教務キャリア部長、生徒保健部長 各年次主任、各年次担任

オ 運 営

総 会 (定例年1回)	理事会 (年3回)
文教部会 (年2回)	年次PTA及び年次懇談会 (年2～3回)

(2) 後 援 会

ア 組織及び目的

昭和35年度以降の本校の卒業生の保護者、及び本会の目的に賛同するものを以って組織し、学校の施設設備の充実、運営に関する協力を行い、学校の発展を後援することを目的とする。

イ 本年度役員

会 長	須 田 勉 (前年度年次委員長)
副会長	石 井 純 子 (前年度PTA副会長) 齋 藤 恵 美 (校長)
監 事	小 松 由 布 子 齋 藤 邦
事務局	教頭、事務長、みらい魅力室

(3) 同 窓 会

ア 本年度の重点

ア 本部並びに支部活動を活発にし、母校の発展に貢献するとともに会員相互の研修と親睦を図る。

イ 総合学科移行にあたり、学校存続のため同窓会の体制も整備しながら、入学志願者の拡大に尽力する。

イ 機構及び運営

会 長	高 橋 冠 治
副会長	畠 中 光 一 後 藤 い く
顧 問	齋 藤 恵 美 (校長)
理 事 (支部長)	
	池 田 恒 紀 齋 藤 仁 八 鳴 瀬 良 勝
	小 沢 徹 高 橋 光 兵 藤 正 志
監 事	高 橋 淳 史 那 須 正 幸 時 田 正 治
事務局長	秋 野 傳 二
事務局	本 間 賢
会 員	8,309名 (令和6年度入会21名追加)
総 会	定例年1回

2025(令和7)年度年間行事予定表

山形県立遊佐高等学校

[illegible]

応援歌第1番



応援歌(第一番)

仁木島 正治 詞

一、誇りも高くそびえ立つ

我が故里の鳥海を

朝夕仰ぎ磨きし力

今ぞ示さん 遊佐高健児

君等の力 我等の意気を

二、山をうつつして流れ行く

我が故里の月光を

明け暮れ眺め鍛えし力

今ぞ示さん 遊佐高健児

君等の力 我等の意気を

応援歌第2番

後藤政之助 作詞
 高山 菊司 作曲



応援歌(第二番)

仁木島 正治 詞

一、靈峯鳥海背にうけて

鍛へに鍛えし 我が選手

みよ 熱血のほとばしる

燃ゆる希望の 遊佐健児

二、力示さん時ぞ今

起てよ応へよ 我が選手

勝利の盾を手にとりて

我等に示せ 遊佐健児

三、いざもろ共に喜びて

我はたたへん 我が選手

君等のたてしさをしを

とわに語らん 遊佐健児

応援歌第3番



応援歌(第三番)

後藤政之助 作詞
 高山 菊司 作曲

1 青空高く

鳥海山を

朝夕鍛えし

試さんかなや

今こそ示さん

勝利は常に我とあり

2 源遠き

川の流れを

不絶の努力

我が精銳の

前途をはばむ

今こそ起ちて堂々と

3 ああ若人の

力あふるる

紫紺の旗を

必勝の意気

大地をけりて

勝利は常に我とあり

血は燃えて

我が選手

なびかせて

胸にひめ

奮起せば

勝利は常に我とあり

月光の

望みつつ

続けたる

征くところ

何かある

勝利の栄冠勝ちとらん